

なっていた。

この頃、岩登りやスキーに等級があるように、遊び仲間の間で自然に難易度なんいどによる等級ができていた。

私は木登りは得意の方だった。

日野川の川岸から突き出すように幹を伸ばした椿つばきの老木があつて、子供仲間で難物なんぶつとしてマークされていた。

その木に初登攀はつとはんをなしとげ得意になっていた。

ともかく山の子、川の子、自然の子として過ごした四年間の生活は、私の生涯しょうがいの指針ししんを少しの迷いもなく自然指向へと駆りたてていったように思われる。



昔、田淵行男さんが幼いころ遊んだ日野川。清らかな川の流れは、今も変わりなく流れ続ける。
(写真は黒坂上3区から見る日野川)

『安曇野の蝶』より一部抜粋